



愛知県私立幼稚園連盟の教員資質向上の取り組み

1. 地区別講座
2. 幼稚園教育要領研究グループ研修会
3. 東海北陸地区教育研究大会
4. 特別支援教育研修会
5. 特別支援事例研究会
6. 保護者への対応の仕方を考える研修会
7. 新規採用教員研修会
8. 2年目教員研修会
9. 3年目教員研修会
10. 10年目教員研修会
11. 園長・主任研修会
12. 課題研究

年間79日間の研修会を実施し、延べ10,500人の教師が参加しています。

2010・2011年度 課題研究への取り組み

1. テーマ「子どもにふさわしい遊具について考える」
指導顧問：花井 忠征（中部大学 現代教育学部 副学部長）
2. テーマ「子どもたちが主体的に遊びに取り組む環境の構成を考える」
指導顧問：岡林 恭子（名古屋短期大学 教授）
3. テーマ「絵本が好きな子供をそだてるためには」
指導顧問：三田 郁穂（椋山女学園大学 付属幼稚園 教頭）

はじめに

園庭は、園児たちにとって魅力的な遊びの場であり、計画的に配置された固定遊具（以下、遊具とする）は想像性をかき立て、自主性、社会性を培わせるのに大切な教育的環境である。しかし、近年、従来型の遊具が安全管理面や老朽化が進み消えつつあるといわれている。一方で大型複合遊具が積極的に導入されるようになってきている。

愛知県私立幼稚園連盟 第1教育研究部は、2010年度・2011年度の2年間をかけて「子どもにとってふさわしい遊具とは」を課題研究のテーマにして議論を深めてきた。その一環として2011年8月に県内の私立幼稚園理事長・園長など管理職を対象にして「園庭の固定遊具についてのアンケート」調査を実施した。

本研究は、分析結果をもとに、愛知県内の幼稚園の遊具の実態と幼児にふさわしい遊具とは何かについて報告する。

研究方法

1. 調査対象

愛知県私立幼稚園連盟加盟幼稚園421園の理事長、園長、主任などの管理職

2. 質問紙調査内容

園庭の固定遊具数、撤去した遊具と撤去理由、ブランコなどの揺れ、回転遊具の撤去に対する考え、遊具の必要性、幼児にふさわしい遊具など7項目について選択、記述回答を求めた。

なお、本調査では、園庭の固定遊具に築山と砂場も遊具に含めて調査を実施した。

3. 研究期間

2011年7月～8月にかけて郵送法で実施した。

研究方法

4. 倫理的配慮

回答は無記名方式で行い、園や回答者が特定できないように配慮した。

5. 回収率

回収率は46.1%（有効回答数194園/421園）であった。

回収率が半数に満たなかったために、本結果が愛知県私立幼稚園の遊具の実態や考えを代表する結果であるとすることはできないが、それらの傾向を把握するには有効な結果であるとする事ができる。

回答管理職の内訳は、図1に示した通りであった。



図1 回答者の職種

結 果

Q. 園庭にある固定遊具数



図2 園当たりの設置固定遊具総数

Q. 園庭にある固定遊具

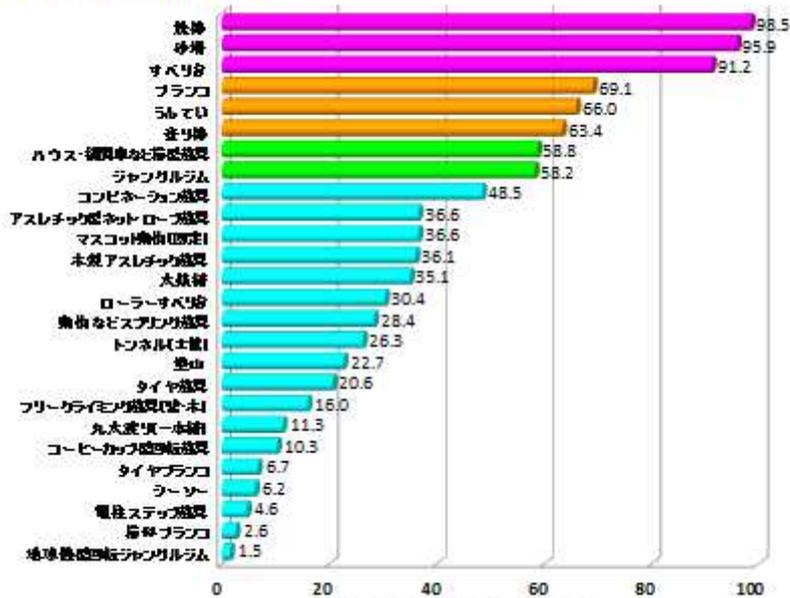


図3 固定遊具種の保有率

Q 撤去した遊具とその理由

表1 固定遊具の撤去理由

撤去した固定遊具名	回答園数	率(%)	撤去理由率(複数回答)(%)							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1 プランコ	46	23.7	23.9	4.3	55.2	13.0	21.7	0	4.3	0
2 シーソー	29	14.9	31.0	6.9	27.6	17.2	55.2	6.9	0	0
3 ジャンダルム	27	13.9	23.1	7.4	14.8	0	63.0	0	0	0
4 地球儀型回転ジャンダルム	26	13.4	7.4	3.7	48.1	14.8	40.7	7.4	7.4	0
5 扇形プランコ	22	11.3	18.2	4.5	77.3	13.6	13.6	4.5	0	0
6 太鼓橋	20	10.3	25.0	5.0	35.0	5.0	55.0	0	0	0
7 乗り橋	16	8.2	43.8	6.3	6.3	6.3	30.0	0	0	6.3
8 動物などスプリング遊具	16	8.2	12.5	6.3	56.3	25.0	43.8	6.3	0	0
9 ランディ	15	7.7	33.3	20.0	6.7	0	33.3	0	0	0
10 木製アスレチック遊具	14	7.2	14.3	7.1	0	0	85.7	0	14.3	0
11 コーヒーカップ型回転遊具	11	5.7	0	0	63.6	0	27.3	0	0	18.2
12 タイマープランコ	10	5.2	10.0	0	40.0	0	60.0	0	0	0
13 マスコット動物(固定)	10	5.2	10.0	0	0	0	80.0	0	10.0	10.0
14 タイマ遊具	9	4.8	44.4	11.1	0	11.1	33.3	0	0	0
15 ハウス・樹屋型など箱型遊具	8	4.1	12.5	0	0	0	87.5	0	25.0	0
16 ナベリ台	7	3.6	50.0	0	20.0	10.0	50.0	0	0	0
17 トンネル(土管)	7	3.6	71.4	14.3	14.3	0	14.3	0	14.3	0
18 砲山	7	3.6	85.7	0	28.6	0	0	0	0	0
19 お木登り(一本挿)	5	2.6	0	20.0	0	0	80.0	0	0	0
20 コンドネーション遊具	5	2.6	40.0	20.0	40.0	0	40.0	0	0	0
21 アスレチック型ネット・ロープ遊具	5	2.6	0	0	20.0	20.0	60.0	0	0	0
22 鉄棒	3	1.5	0	33.3	0	0	33.3	33.3	0	0
23 ローラーナベリ台	2	1.0	0	50.0	0	0	20.0	0	0	0
24 電柱ステップ遊具	2	1.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0	0	0
25 フリークライミング遊具(壁・木)	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-
26 鉄橋	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-

- ※ 撤去理由
 ① 園庭の改装に伴い撤去
 ② 園舎の増築にともない園庭が狭くなったため撤去
 ③ 危険性があるため撤去
 ④ 事故が起きた(起きそうになった)ために撤去
 ⑤ 劣化したため撤去
 ⑥ 行政等の指導により撤去
 ⑦ 維持管理が負担なため撤去
 ⑧ その他

※複数回答あり

「その他」の回答理由
 ※1 他の遊具を導入したため
 ※2 他園で事故が起きたから(2園)

Q. プランコ・回転遊具の撤去



図4 回答園(18園)におけるプランコや回転遊具の撤去に対する考えの該当率(%)

※その他の回答
 -一人遊びになりがち
 -遊具の使い方を正しく教えればよい
 -危険性の配慮と引き換えに失うものがない心配
 -安全で楽しい遊具もあるため
 -年上の子の真似をする、チャレンジできる、
 -物陰がいる前で使用するべき
 -回転遊具については、危険な遊びに発展しがちな危険が伴う。
 -プランコは感覚発達には良いので撤去は控え、回転遊具は幼児には危険なので撤去すべし。
 -不要とは言わないが、あえて設置する必要はない。
 -心身の発達に必要
 -プランコに関しては、幼児の感覚発達に必要なと思うが、回転遊具は危険が伴うので仕方ない。
 -プランコの周りには職員が危ないと感じても助ける事が困難であり、安全面での管理が難しいと感じ撤去。
 -動く遊具は園児が好むため撤去は控えだが、維持や管理が難しい。自園では、4月からはプランコを設置せず、子ども達の発達状況をしながら11月頃から使用する。その際は保育者が付き添う。
 -感覚発達に必要であると思うが、実際に事故が多く、遊具園にいった時も発生を一人配置するなどの対応が必要だった。やはり難しい。
 -使い方が難しい。「転んだら石が悪い」理論のような気がする。
 -時代の流れでやむを得ない。

Q.固定遊具の必要性

必要派 (190園)

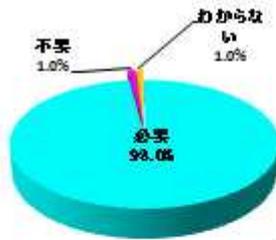


図5 遊具の必要性

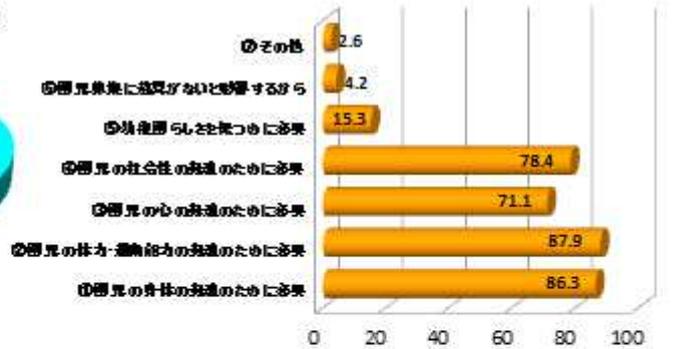


図6 園庭に遊具が必要な理由

※その他の回答
 ・遊具を媒体として、社会性を養いそこから年齢相応に発展させていくきっかけ作り。
 ・子どもが求め、友と関わりながら楽しさを共有できる。
 ・入園当初、友だちと関わりが持てない子が一人で遊ぶ事ができる。
 ・絶対に必要ではないが、ある事で物理的環境として子どもの教育に活用できる。
 ・元々遊具は子どもの興味・関心の高いもので、遊びを中心とする自園の教育方針にとって自由遊びに必要。
 ・順番待ちなど子どもの中で社会性を養うのに必要。

Q.固定遊具の必要性

不要派 (2園)

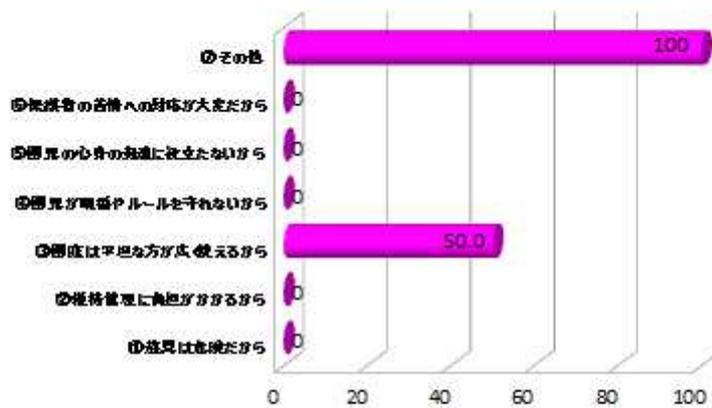


図7 園庭に遊具が不必要な理由

※その他の回答
 ・遊具としては必要ない。石などでも遊べる。
 ・教育という観点からすれば、遊具遊びより集団遊びの方が重要。

Q.固定遊具の材質



図8 幼児の心身の発達と固定遊具の材質

Q.幼児にふさわしい固定遊具

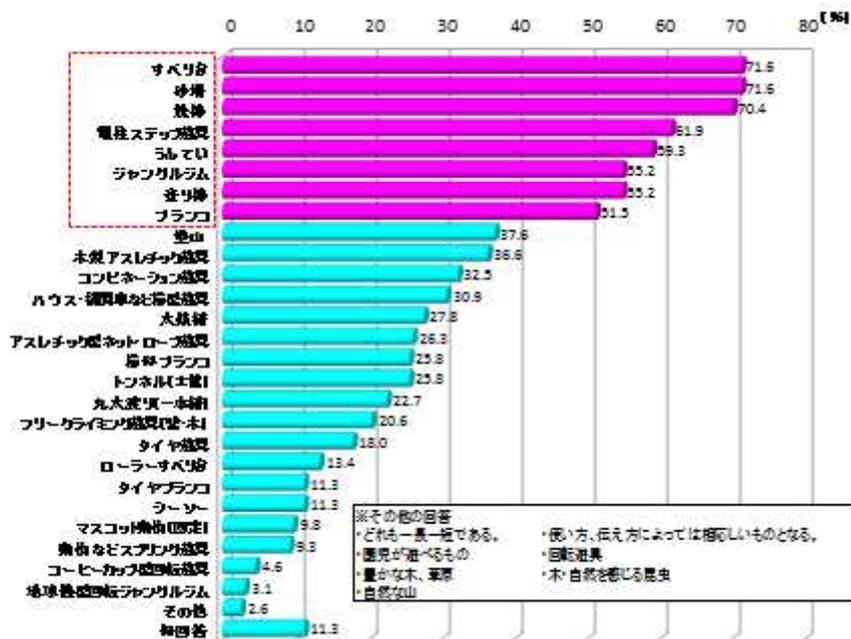


図9 幼児にふさわしい固定遊具

考 察

愛知県私立幼稚園の園庭の遊具の実態は、平均10基が設置されており、9割以上の園に鉄棒、砂場、すべり台が設置されていた。

一世代前には定番であったジャングルジムやブランコは、半数の園が設置しているに過ぎず、それに代わって大型複合遊具（コンビネーション遊具）を導入する園が半数近くまで増加してきている。

一方、遊具の撤去も進んでおり、ブランコは4園に1園が撤去していることが明らかとなった。遊具が撤去される一方で、幼児の感覚発達に必要であるなど遊具の撤去に否定的な考えが多く得られ、遊具に対する園の葛藤とジレンマをうかがうことができた。

考 察

園が考える幼児にふさわしい遊具には、すべり台、砂場、鉄棒、電柱ステップ遊具が挙げられた。これらの遊具は、撤去した園数が少ないことから、安全性が高く、心身の発達に効果的な遊具であるにとらえられているからであろう。一方、ブランコは危険を伴う遊具として高い撤去率を示したが、その反面、幼児にとってふさわしい遊具であると考える園が半数に及ぶことを把握することができた。また、近年普及が進んでいる大型複合遊具よりも、昔ながらの単体の遊具をふさわしいとする園が多いことも明らかとなった。

本調査を通して遊具には危険性が潜んでいるものの、幼児の心身の発達にとって有効な教育環境であり、園庭に必要な教具であるという考えが大勢であることを確認することができた。

まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

固定遊具の効果 (三つの柱)

からだ

粗大運動の発達
生活基本動作の獲得と発達
からだの使い方⇒器用な身のこなし
五感の発達（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）
安全配慮⇒身のこなし

こころ

意欲・興味・関心・態度
判断・挑戦するこころ
(わくわく・ドキドキ)
達成感
想像するこころと創造する力

なかま

ルール（順番を守る・遊具の使い方）
マナー（譲り合い）
協力・協調 ⇄ 競争
コミュニケーション
きずな（仲間意識・思いやり）

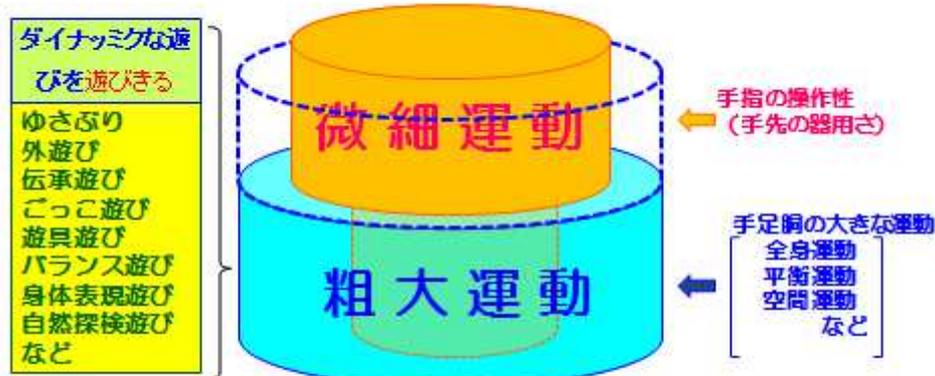
幼児期は基礎的な運動動作を獲得する時期

姿勢制御運動 スキル (安定性)	姿勢変化	立つ、立ち上がる、逆立ちする、わたる など
	平衡動作	しゃがむ、起きる、ぶらさがる、乗る など
移動運動 スキル	上下動作	登る、跳び上がる、跳び降りる など
	水平動作	這う、泳ぐ、歩く、踏む、滑る、スキップする 背負う、追いかける など
	回転動作	かわす、かくれる、もぐる、くぐりぬげる など
操作運動 スキル	荷重動作	かつぐ、支える、運ぶ、持つ、押す など
	脱荷重動作	おろす、浮かべる、降りる、もたれる など
	捕捉動作	つかむ、つかまえる、とめる、捕る、回す など
	攻撃的動作	たたく、打つ、割る、投げる、蹴る、たおす など

※ 豊富な運動あそび体験（特に粗大運動）が器用さの改善につながる



粗大運動（全身運動）を十分に豊富に保障する



粗大運動（全身の関節や筋肉が参加するダイナミックな運動）は、微細運動（手指などの小関節や小筋群による巧みな運動）に先行して発達する。

粗大運動を十分に体験させることで、微細運動が豊かに発達する土台ができる。

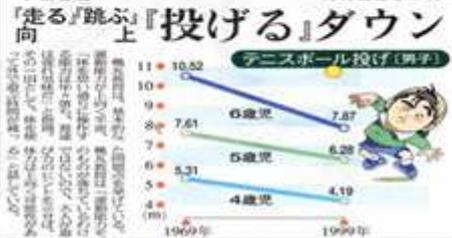
1歳～3歳頃の歩行・平衡運動発達（歩・走・片足運動・）ステージでは、大筋群が急速に発達し粗大運動の機能を身につける。この時期に、身体の末梢における働きである微細運動（手指の動き・つまみ）の発達のステージに入る。

幼児の体力 30年前と比べたら

体格は大きく 運動は不器用

名古屋大学大学院の調査によると、1969年から2009年までの30年間で、幼児の体格は大きく成長したが、運動能力はむしろ低下しているという。特に、ボール投げや縄跳びなどの運動能力が顕著に低下していることが明らかになった。

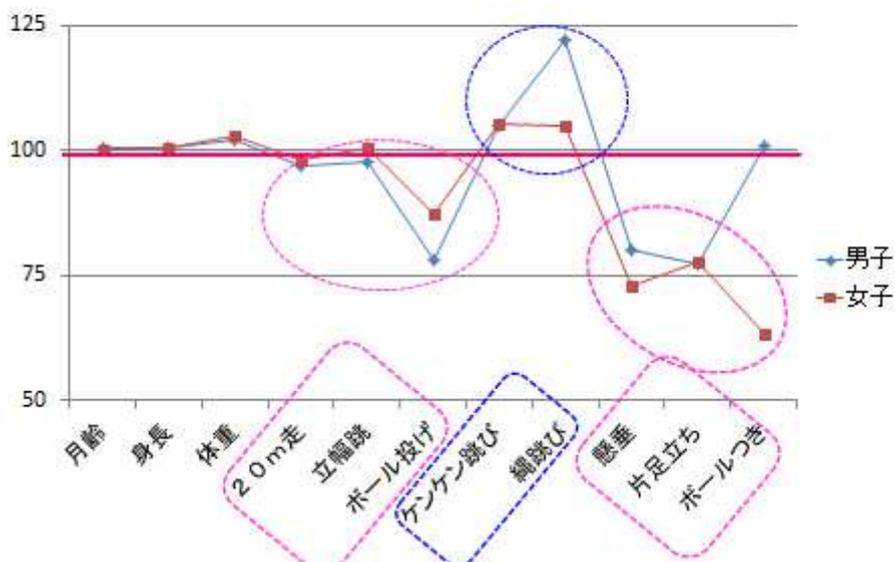
1969年	2471名
1979年	4092名
1989年	977名
1999年	4233名
2009年	3300名



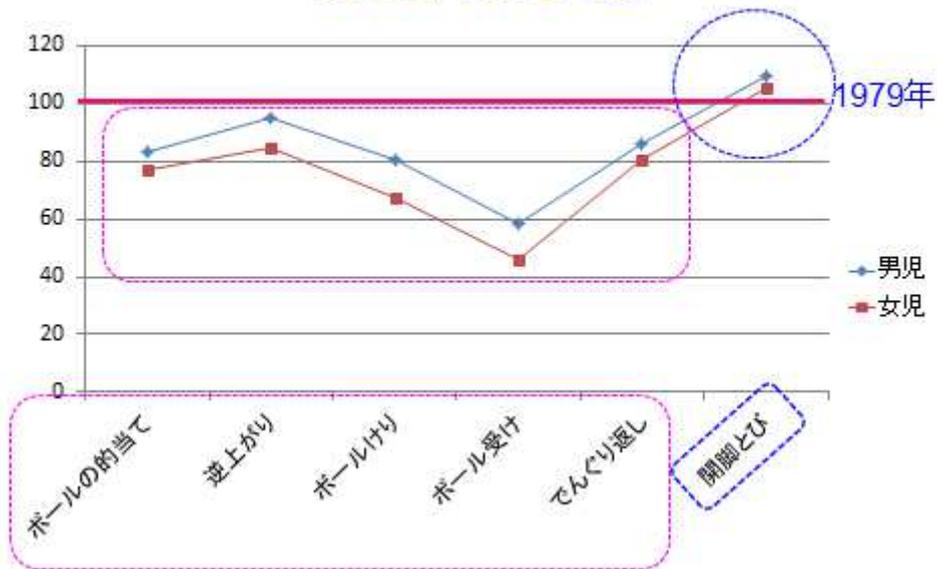
研究チーム
(東海子どもの発達研究会)

名古屋市立大学 権丸武臣
 中御大学 花井忠任
 愛知工業大学 藤井勝紀
 愛知大学 村瀬留彦
 愛知県立芸術大学 石垣 孝
 ほか

体格・定量的 (記録でみる) 運動能力の比較 2009/1979年比



定性的（できる・できない）運動能力の比較 2009/1979年比



幼児期運動指針

普及用パンフレット

幼児は
様々な遊びを中心に、
毎日、合計60分以上、
楽しく体を動かす
ことが大切です！

この指針は、運動習慣の醸成づくりを通じて、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を築くとともに、様々な活動への参加や社会性・創造性などを育むことを目指すものです。
幼児にとっての運動は、楽しく体を動かす遊びを中心に行うことが大切です。また、体を動かすことには、散歩や手遊びなど生活の中での様々な機会を求めます。

文部科学省
幼児期運動指針策定委員会

幼児期運動指針 ガイドブック

楽しく体を動かして遊ぶために

文部科学省
幼児期運動指針策定委員会

運動能力を高めるには



まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

固定遊具の効果
(三つの柱)

からだ

こころ

なかま

バーチャルな世界が身近にあり、それがあたかも普通なことだと錯覚させられている現代の子どもたちだからこそ、豊かな実体験や人間関係を通して心身を健やかに発達させなくてはならず、園庭の遊具の果たす役割は大きいと考える。

まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

園庭の固定遊具 〇 目的にかなった使い方をすればふさわしくない遊具はないのではないか

現代の子どもはいつ、どこで**三半規管**を豊かに発達させることができるか？
日常的に発達刺激を得る機会は？

撤去・廃止の対象遊具

ブランコ
シーソー
うんてい
ジャングルジム
など

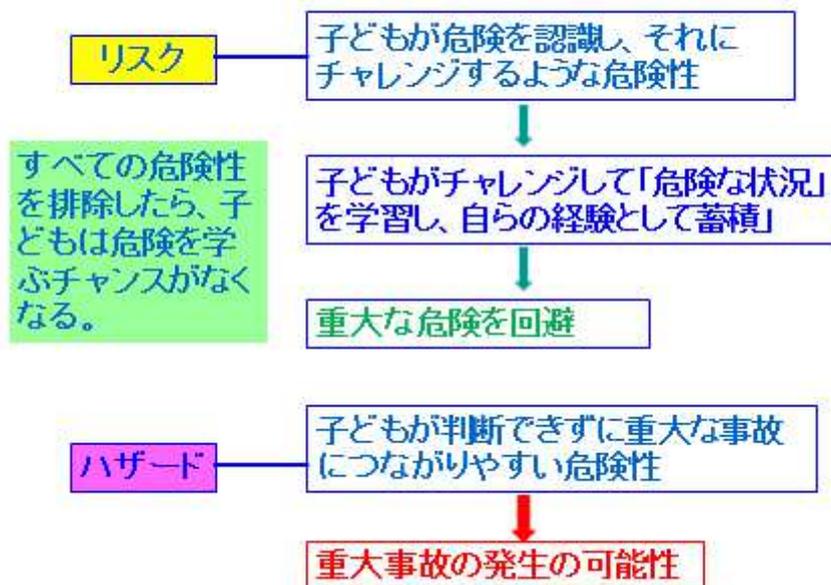
ゆるる（平衡性の保持・姿勢保持）
まわる
ぶらさがる
さぐる（バランス保持・姿勢保持）
非日常的な運動体験



チェーンを外して使えないようにする対処方法。
使う時は、用務員が設置し、教員が立ち会う。
接続部のボルトの適切な締め付けは毎回問題なく行われるのか？



危険の考え方：リスクとハザード



園児の伝統的な工夫(約束)と 教師の安全配慮(ことばがけのタイミング)



●●県 ●●●幼稚園

制限区域とプラットフォームの設置

乗る子も、待つ子も約束を守ることができる風土づくり



まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

長年、遊具の安全管理や事故対策に頭を悩ませてきた多くの園がとってきた措置が、現在の遊具の使用のあり方や撤去の実態に表れていることはよく理解できる。

しかし、理想論であるかもしれないが、排除の論理、園児の活動の制限・管理強化によって、**幼稚園教育の本来の姿を見失わないようにしたいものである**

園児に園庭の遊具の使用方法を理解させ、どこが危険なのか、何をすると危険なのかなどを**繰り返し認識させ、定着させる**ことで、けがにつながる行動や重大な事故を回避することができるようになるのではないだろうか。

ことばでの指導だけでは**抽象的で園児には伝わらない**



絵カードによる指示
絵本の読み聞かせ
(**視覚に訴える学習指導**)

まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

子どもは園内だけで生活しているわけではない。家庭や地域での生活行動でも危険と遭遇する場面は多くある。

大人が見ていない場面でも、子どもが**自ら危険を察知し、安全に行為、行動することのできる能力**を身につけさせることも、幼児教育に課せられた課題ではないか。

幼稚園教育要領「健康」：

(ねらい)

健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

(内容)

危険な場所、危険な遊び、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

まとめにかえて

ふさわしい遊具を考える

今回の調査で半数以上の管理職が
「幼児にとってふさわしい遊具」としたもの

すべり台 ・ 砂 場 ・ 鉄 棒
電柱ステップ遊具 ・ うんてい
ジャングルジム ・ 登り棒 ・ ブランコ

今回の調査から、これらの遊具の特性を再考し、子どもたちに安全に使わせる教育環境を整える工夫と努力が必要ではないかという示唆を得た。

「子どもにとってふさわしい遊具」は、大人の視線や都合で考えるばかりでなく、遊具を使う子どもを主人公にして、みとおしと願をもち、豊かに遊具とふれあわせることによって実現できるのではないかと考える。